



創造力とコミュニケーション 能力を育むキャンプ

橋本 好幸

Hashimoto

Yoshiyuki

神戸市立工業高等専門学校
副校長・電子工学科教授

▼YMCAキャンプとの出会い

大学1年次に、「休日に野外活動する楽しいクラブがある。」と友人に誘われて、付いて行ったのが始まりです。そのクラブが、YMCAのボランティアリーダー会で、いつのまにかYMCAのキャンプリーダーとしてデビューしていました。

▼YMCAでの活動

大学時代の4年間は、ほぼYMCAの野外活動に明け暮れる毎日でした。定例活動では、毎月、小学生の子どもたちとハイキング、キャンプ、登山などの野外活動に出かけていました。夏休みは、姫路YMCAの太子教育キャンプ場でキャンプのリーダーとして、小学生の子どもたちとアーチェリー、カヌー、飯盒炊さん、クラフト、キャンプファイヤーなどを楽しみました。

また、ある時は長期キャンプとして3～6泊で小豆島の吉田海洋キャンプ場へ出向き、子どもたちとカッターボート、海水浴、川遊びなどをしました。冬休みは、早朝スケート教室として幼稚園から小学生までの子どもたちにスケートを教えていました。

▼キャンプの影響

キャンプリーダーの経験は、野外活動を通して子どもたちと共に、私自身を成長させたと思います。キャンプリーダーはボランティアとはいえ、責任を持って子どもたちに野外活動させるには、十分な準備と他のキャンプリーダーとの連携が重要です。定例活動前のミーティングや下見で想定される危険事項をピックアップし、当日の子どもたちの行動を想定しながら適切なプログラムを準備していく行程は、まさに一般社会での仕事の手順と同じです。

大学生時代にこのような経験をできたことはその後の私の人生においてプラスになっています。また、定例活動後には、キャンプリーダー同士で食事に行き雑談したり、休日には遊びに行ったりと、大学や年齢を超えて、同じ仲間としてお互いに楽しみ、理解し合う機会も数多くありました。この経験も、仕事をする上で重要なコミュニケーション能力を高めてくれたと思います。

このように、自分自身が成長する上に、野外活動で子どもが成長していく様子を見て、さらに感動することができるYMCAのキャンプリーダーは、本当に素晴らしいと思います。

▼少年部のプログラム

現在、私は教員として技術者の育成に携わっています。技術者として活躍するための能力として「創造力」や「コミュニケーション能力」などが挙げられます。私の経験上、これらの能力は、幼少期の経験にも左右されるのではないかと考えています。例えば、当方が子どもの頃は、ビー玉やボールなどの単純な道具を使って、友だちと遊び方やルールを相談しながら遊んでいました。

また、時には、山に落ちている " どんぐり " を拾ってきてコマを作り、友だちとコマ回し対決をしました。そこでは、どんぐりの形はどんなのが良いか、竹ひごの刺し方はどうすれば良いかなどを考えながらコマ作りをしたものです。そのような幼少期の経験を通じて「創造力」や「コミュニケーション能力」が自然と身に付いたのではないかと考えています。

しかし、現在の子供たちは、電子ゲームのように最初から完成した物を与えられ、創意工夫して遊ぶという経験が圧倒的に少ないと思います。そのような現代子に、集団で様々な体験させ創意工夫する機会を提供できる野外活動は、今後の日本を支える技術者の育成に大いに役立つと考えています。今後も、YMCAの野外活動を通じて、創造力豊かな子どもが数多く育つことを期待します。



Profile

1984年 姫路工業大学(現兵庫県立大学)電気工学科入学、姫路YMCA野外活動リーダーに所属、1994年 同大学院博士専攻修了。神戸市立工業高等専門学校電子工学科勤務
現在、副校長・教授として技術者教育とパルスパワーに関する研究に従事。